

令和 8 年 7 月 24 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

広島県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
広島大学附属福山中学校	国立大学法人広島大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
広島大学附属福山 中学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_fukuyama/kyoiku/curriculum

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
広島大学附属福山 中学校	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_fukuyama/kyoiku/curriculum	https://www.hiroshima-u.ac.jp/fu_fukuyama/kyoiku/curriculum

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている
☐ 一部、計画通り実施できていない
☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している
☐ 実施していない

＜特記事項＞

例年実施している教育研究会の公開研究授業において、中学校は1年生「大地の成り立ちと変化」単元で扱う堆積岩について、人工的な岩石であるコンクリートを材料に、実験を行いながら探究する授業を実施し、地学的な内容を中学校3年生に集めて実施するカリキュラム実践の取組について参加者に紹介した。

3. 実施の効果及び課題

（1）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

目標としている自然災害を科学的に捉え、科学的な根拠に基づいて行動することは達成できたかについては、知識・理解だけでなく、自然災害が激甚化する中で、命を守るための基本的な知識や考え方を身に付け、目標はある程度達成している。

一方で防災教育、減災教育リテラシーの育成の成果及びカリキュラムの事前説明及び普及が課題である。

（2）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

中学校・理科の目標の達成には、身近な事例や実験・観察を通して、問題解決や科学的な探究プロセスの中で、学習を通して身に付けた知識を活用することができるような指導の充実が重要である。

このカリキュラムの実施に当たり、実際の天気予報や地域のハザードマップの活用、地域の特徴や時事的なトピックの積極的な活用により、より具体的な事例を通して学ぶことで、生徒の自然科学への主体的な態度の育成に繋がっている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

特別な教育課程の実施について、その取組及び成果の普及をさらに充実させる必要がある。具体的な授業の展開例などを同校ウェブサイト公表することで、防災減災教育が地域の公立学校等での活用が広がると考えている。